

栃木県におけるニラ向けネバリン施用試験報告書

日本肥糧株式会社

1. 目的 : 栃木県のニラ向けにネバリンを施用し、その効果を確認する。
2. 場所 : 栃木県真岡市
3. 栽培概要 : 作物 : ニラ
定植 : 2015年8月
品種 : グリーンベルト
収穫日 : 表1の通り

表1. 収穫日 (2016年～)

区	収穫日				
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
対照区	2月13日	3月23日	4月11日	5月14日	6月11日
試験区	2月16日	3月26日	4月12日	5月16日	6月15日

4. 試験設定 : ネバリン89kg/10a相当を施用したハウス1棟を試験区とし、隣接するハウスを対照区とした。
5. 調査項目 : 各区の収穫箱数を生産者協力のもと調査した。また、収穫3回目近くのニラ地上部の生育調査と成分分析を行った。成分分析は各区3株ずつ刈り取り調査した。
6. 結果 : 収量調査の結果を表2に、生育調査と成分分析の結果を表3、4、5に示した。

表2. 収量調査結果 (ハウス1棟の収穫箱数)

区	収穫回数					10a換算 合計
	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	
対照区	89	92	110	98	108	497
試験区	91	93	127	103	108	522
収量差	2	1	17	5	0	25

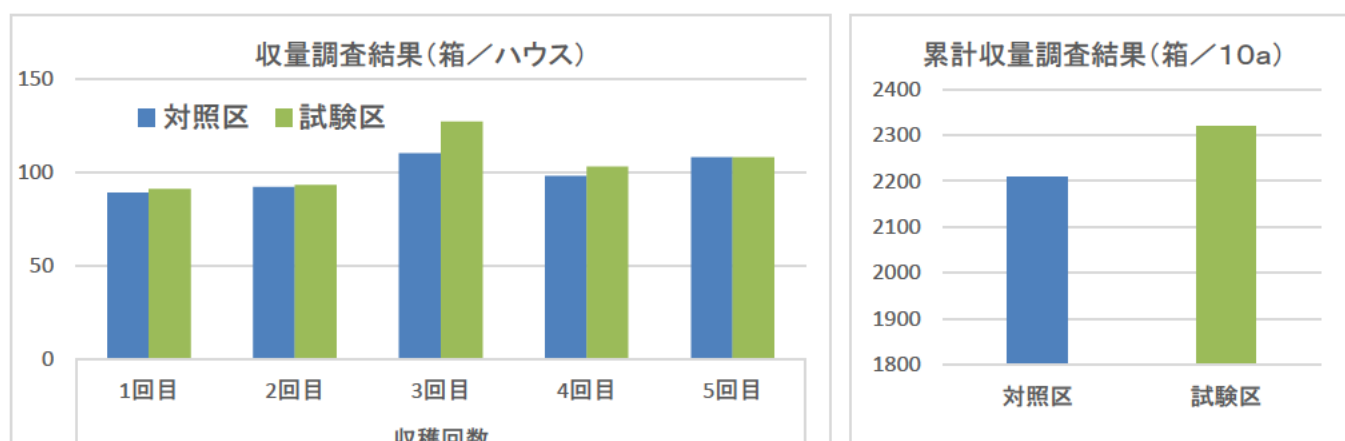


図1. ハウス当たりの収量調査結果、10a当たり累積収量調査結果

表3. 収穫3回目近くの生育調査結果

調査項目	地上部 生鮮重	地上部 乾物重	最長葉長	茎直径	分げつ数
	g	g	cm	mm	本
対照区	108.5	7.4	34.5	5.1	33.0
試験区	153.0	10.0	37.3	4.9	38.3

表4. 収穫3回目近くの地上部成分分析結果（表中の値は乾物重当たりの数値）

測定項目 (含有率)	T-Ca	T-Mg	T-K	T-P	T-Fe	T-Mn
	%	%	%	%	ppm	ppm
対照区	0.68	0.29	5.60	0.54	116.2	53.0
試験区	0.69	0.27	6.48	0.56	113.1	48.4

表5. 収穫3回目近くの地上部成分分析結果（表中の値はニラ1株当たりの平均値）

測定項目 (吸収量)	T-Ca	T-Mg	T-K	T-P	T-Fe	T-Mn
	mg	mg	mg	mg	mg	mg
対照区	50.0	21.3	412.2	39.9	0.86	0.39
試験区	68.8	27.4	647.7	55.7	1.13	0.48



写真1. 試験区の様子（2016年4月6日）



写真2. 対照区の様子（2016年4月6日）

7. ま と め :

ネバリンを施用した試験区は対照区と比べ、地上部重量及び葉長、分げつ数が優り、収量も5回合計で111箱/10aと上回った。箱単価を2,500円/箱とすると+277,500円/10aとなり、十分に費用対効果があると考えられた。ニラは株を残したまま繰り返し収穫するため、多収のためには養分吸収を旺盛にし、草勢を維持することが重要である。成分分析結果では、成分含有率はいずれの成分も試験区は対照区と同程度か上回り、吸収量は全て上回ったことから、ネバリン施用によって養分吸収が効率的に行われ、収量向上に寄与したと考えられる。

以上